

社会学 専攻（博士前後期共通）

試験科目：第1外国語（英語）

試験時間：（ 45 ）分

設問

（解答は、横書きとする。行の冒頭に1. などと設問の番号を記すこと）

問1. 問1. 空欄（a）にあてはまる最も適切な語を、以下の選択肢（ア～カ）から1つ選び、その記号を書きなさい。

ア games イ medicines ウ thinkers エ societies オ beliefs カ この中に正解はない

問2. 問2. 空欄（b）にあてはまる最も適切な語を、以下の選択肢（ア～カ）から1つ選び、その記号を書きなさい。

ア Philosophy and Constitutions イ Enlightenment and Revolution ウ War and Treaties

エ Law and Rights オ Neoliberalism and deregulation カ この中に正解はない

問3. 下線部①を日本語に訳しなさい。

【解答例】私の出発点は次の点にある。すなわち、ナショナリティ、この語がもつ多義性を踏まえれば、むしろネイションネスと言い換えたいかもしれないが、およびナショナリズムは、いずれも特定の種類の文化的人工物である。

問4. 本文で提示されている、ネーションの定義を日本語で記述しなさい（50字程度）。

【解答例】ネーションとは、想像された政治的共同体であり、有限であり、主権をもつものとして想像されているものである。

問5. Gellner の議論について、筆者が本文中で批判している点はどのようなものですか。本文中の記述に即して、日本語で説明しなさい（150字以内）。

【解答例】ゲルナーは、虚偽の側面を強調するあまり、「真の」共同体が存在し、それをネーションと対比できるかのように示唆してしまう。共同体は、その虚偽性や真正性によってではなく、それがどのような様式で想像されるかによって区別されるべきである。

問6. 下線部②について、どのような事例がここに当てはまると考えられるか。本文外の歴史的事例を1つ挙げ、下線部②の記述とのかかわりを具体的に説明しなさい（150字以内）。

【解答例】第二次世界大戦末期、日本の特攻隊員が挙げられる。国家のために、隊員たちは、自らの死を積極的に受け入れ、爆弾を積んだ航空機などで敵艦に体当たりするという任務を遂行した。この行為は、国家への忠誠心と共同体意識が、若者たちに「喜んで死ぬ」決断をさせた典型的な事例である。

出題意図：下記を問うため。

問 1・問 2：テキストの文脈を把握しているかどうか。

問 3：文章のつながりが理解できているかどうか。

問 4：本文の重要な定義を見逃すことなく、正しく把握できるかどうか。

問 5：本文の記述から、著者の理論的立場性を正しく理解できるかどうか。

問 6：本文を適切に理解したうえで、それを応用できるかどうか。

社会学専攻（前後期共通）

試験科目： 専門科目（社会学）

試験時間：（75）分

1. 以下の概念について、それぞれ150字～200字で説明しなさい。

【解答例】 ア. ジニ係数 イタリアの社会学者C.ジニが所得格差を測るために考案した指標で、全所得が全員に均等に分配されている状態を基準として、現実の所得分配がそこからどの程度乖離しているかを示す。また、ジニ係数は0から1未満の値をとり、0に近いほど所得が均等に分配されている状態を示す。逆に1に近いほど所得格差が大きいことを意味する。

【解答例】 イ. 生活世界 ハーバーマースは、コミュニケーション的行為によって構築される生活世界と、社会進化とともに生活世界から切り離されて自律する社会システムとの関係を問題にした。かつては生活世界内での了解によって相互主観的に成立していた社会秩序や教育等が、行政・経済システムによる影響・介入をうけて社会システムに隷属するとき、生活世界の植民地化と呼ばれる。

【解答例】 ウ. 社会関係資本(social capital) 諸個人や地域・集団・組織にとって有用なネットワーク的資源のこと。代表的な論者にJ.S.コールマン、R.パットナム、N.リンらがいる。例えばパットナムは、社会関係資本は一般的信頼や規範、ネットワークによって測定できるとした。社会関係資本には、身近な人びとを強くつなぐ結束型のものと、それほど近しくない人同士を緩やかにつなぐ橋渡し型のものがある。

【解答例】 エ. ダブルバーレル質問 質問文のなかに複数の項目が並んでいるために、回答者が回答にあたって困惑したり、研究者の側も回答者がどちらに反応したか識別できなくなる可能性がある質問を指す。例えば「日本政府には中国と韓国との関係改善に取り組んでほしいですか」という質問では、中国と韓国との対応を分けて考える回答者は回答できなくなる。解決策としては、各項目を別の質問に分けることや、どちらかを削除することが考えられる。

2. 以下のa～cの問いから1つを選び、500字から1000字程度で論じなさい。（どの問いを選択したかを冒頭に記すこと。）

a 方法論的個人主義(methodological individualism)と方法論的集合主義(methodological collectivism)について、各立場を代表する研究者を1名ずつ挙げ、創発的特性(emergence)という概念を用いて、それぞれの特徴と相違点を説明しなさい。

【解答例】 方法論的個人主義(methodological individualism)とは、社会現象を個人の行為の集積によって生み出されるものと捉える立場である。言い換えると、この立場では、社会現象は、そこに存在する個人の行為が基になって存在するものであるから、行為の分析から解明できると考える。代表的な研究者としては、M.ヴェーバーを挙げることができる。彼は、理解社会学を標榜し、行為を当事者に保持している主観的意味に着目して、目的合理的行為、価値合理的行為、伝統的行為、感情的行為に分類し、目的への功利的計算、宗教や道徳に基づく規範的判断、その集団で保持されてきた伝統の遵守、突発的な感情や衝動といった多様な意味が行為の背後にあることを指摘した。中でも、資本主義の成立をプロテスタントの禁欲倫理に基づく価値合理的行為の帰結として描いた『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』は著名である。この立場は、その後のシンボリック相互作用論、交換理論、合理的選択理論などにも基本的に採用されている。

それに対して、方法論的集合主義(methodological collectivism)とは、社会や社会集団で生じる社会現象には、

創発的特性(emergence)という独特の性質が何らかの意味で含まれていると考える。それゆえ、社会現象の分析に当たっては、単なる個人の行為の集まりではなく、決して個人の行為に還元することのできないこの特性の解明に当たることが重要である。代表的な研究者としては、E.デュルケムを挙げることができる。彼は、法や道徳、慣習、宗教的教義などを例に、創発的特性を持つ「社会的事実」の解明を社会学の課題と考えた。一例を挙げれば、一人一人はとても真面目で大人しい青年であるからといって、何人も集まって集団となった時にも真面目で大人しい集団となるかといえ、必ずしもそうではない。社会集団においては、 $1+1=2$ とはならず、それ以上にもそれ以下にもなりうる可能性があり、方法論的集合主義では、こちらの側面を重視し分析を行う。社会意識論、社会構造分析、社会変動論などは、基本的にこちらの立場を採用している。

b 社会調査で標本 (sample) を抽出する際に重視される代表性(representativeness)という基準について説明し、この基準を満たすために取られる主要な方法を挙げなさい。

【解答例】 社会調査においては、そこで解明を目指すリサーチクエスチョンが明示され、このリサーチクエスチョンから論理的にその対象となるべき社会集団の範囲が決定される。この社会集団こそが当該の調査における母集団である。たとえば、国勢調査は、日本に在住するすべての人(世帯)の情報を網羅的に集めることを目的としているので、母集団は日本の住民すべてとなるが、地域調査や世代調査であれば、特定の地域の住民や世代の人々に限定されることになる。

社会調査は、母集団との関係で全数調査・標本調査・事例調査に分けられる。全数調査の場合には、母集団に属するケースの全てを対象とするので必要ないが、一部のケースだけを抽出し対象とする標本調査や事例調査の場合には、母集団の持つ傾向と調査対象が持つ傾向が一致するように十分に配慮する必要が生じる。その際、調査対象が持つ傾向が母集団の持つ傾向をどれだけ正確に反映しているかという度合いを代表性といい、一致度が高い場合を代表性が高いといい、一致度が低い場合を代表性が低いという。数量的な社会調査においては、高い代表性を確保するために、統計学的な知見をもとにさまざまな標本抽出法(サンプリング)技法が開発されている。母集団の名簿から、無作為に標本を抽出するランダムサンプリングや、あらかじめ、地点や事業所などを抽出した上で、その中に存在するケースを無作為抽出する層化多段サンプリングなどはよく用いられる技法である。なお、事例調査の場合にも、しばしばスノーボールサンプリングなどの有意抽出が実施されるが、代表性が確保されるわけではないので、論理的に事例を選択したり得られたデータに補正をかける努力が必要となる。

c 社会的逸脱の発生にかかわる主要な学説であるアノミー論(anomie theory)とラベリング論(labeling theory)について、対比しながらそれぞれの特徴をまとめなさい。

【解答例】 社会的逸脱の発生に関して、アノミー論では、社会的規範の状況が変化し、動機付けや同調圧力が弱まり人々の逸脱行動への抑止力が低下することを重視する。たとえば、E.デュルケムは、フランス革命後のフランス社会において、社会的規範の弛緩によってアノミーが発生した結果、人々の欲望を抑えるものがなくなり、無際限に増幅する欲望から生まれる苦痛や不安から自殺に代表される逸脱行動が生まれたと考えた。また、R.マートンは、第二次大戦後のアメリカ社会において、マフィアによる犯罪やアルコール中毒の増加といった逸脱行動の背後にやはりアノミーが作用していると考えた。彼の見解によると、この時期のアメリカ社会では、アメリカンドリームという文化的目標が共有されつつも、合法的にそこに到達できる手段はWASPなどの白人中間階級層に限定されていたため、それ以外の多くの人々が合法的な手段を見出せないという状況が生まれていた。彼はこの状況をアノミーとして捉え、この状況への対応としてさまざまな逸脱行動が生まれていると考えた。

こうしたアノミー論に対して、ラベリング論では、ラベリングという一連のミクロな社会的相互作用が結果として逸脱行動の発生と維持拡大に影響を与えると考える。たとえば、H.ベッカーは、特定の個人を逸脱者で

あるとラベリングする行為が、多くの人々からの排除を生み、ノーマルとされる社会空間に居場所をなくした人々が自分たちだけで集まったり、非合法な生活手段を見出したりすることで、結果として逸脱者集団を生み出し、逸脱行動をより促進していくという一連の相互作用プロセスを、マリファナ喫煙者などを事例として描いている。このように、ラベリング論においては、社会変動と連動して生じる社会規範の状況といったマクロな社会状況に注目するアノミー論とは対照的にミクロな視点が取られており、逸脱行動が社会変動とは独立して生じる可能性にも照準しているところに特徴がある。また、この見方は、一度生じた逸脱行動が繰り返されたり常態化したりする理由の解明に道を開いた点でも意味があると思われる。

3. 「社会秩序はいかにして可能か？」という問いは、これまで少なからずの社会学者が問うてきた。この問いにかかわる社会学者2人を取り上げ、以下の①から③について論じなさい。

なお、論じるにあたっては、社会学者それぞれの名前を明記し、合計700～1,000字で論じること。

- ① それぞれの理論の概要、および、それぞれどのように社会秩序が可能だと論じているかについて。
- ② 2人の理論の共通点と相違点について。
- ③ 現代社会における事象について論じる時に、それらの理論がどのように有用か、または限界があるかについて。

【解答例】

- ① 「社会秩序はいかにして可能か？」を論じた社会学者として、パーソンズとルーマンを取り上げる。
パーソンズは、「ホブズの秩序問題」（万人の万人に対する闘争はいかに回避可能かを論じた問題）を問い直し、役割構造の制度化や、AGIL 図式といった概念を用いながら構造-機能分析を行った。パーソンズの理論において、社会の秩序や均衡は、役割の関係性が構造となっていること、人々が役割を内面化すること（動機づけ）、あるいはシステムのなかに A（適応）、G（目標達成）、I（統合）、L（潜在性）を担う機能が存在し、それぞれの機能が果たされることによって可能であると考えられている。
ルーマンは、コンティンジェンシー、システム合理性、オートポイエーシス、システムの自己準拠といった概念を用いながら、機能-構造分析と呼ばれる手法で社会システム全体について包括的に理論化した。ルーマンは、社会システムは本来は複雑極まりないが、意味、信頼、法、言語などによって内部の複雑性が縮減される機能を備えていること、またシステムの自己準拠といった自らを再生産する機能を自らが備えていることにより、社会システム全体の均衡と秩序が可能になると考えた。
- ② 2人の理論の共通点に、社会のシステム全般を包括的に理論化しようとしたこと、またそのなかでは、人間個人の行為者としての主体性は看過される傾向にあったことがあげられる。相違点としては、パーソンズが構造を出発点にその機能について論じたのに対し、ルーマンは機能により焦点をあてて、諸機能の相互の働きについて論じた。
- ③ 2人の理論は、現代の社会を分析するうえでも有用性をもちえる。例えば、大地震など、社会に大きな影響を与えるような変化があった場合、パーソンズの理論を用いると、その状況に対する適応（A）の過程が被災地に生まれ、復興というような新しい目標（G）が立てられ、被災地に新しい統合（I）の過程が生まれ、被災体験の共有など、被災者たちの間に潜在的にコンフリクトを回避するような機能（L）が生まれるなどの分析が可能である。